

タイの大洪水対策はEMが大活躍—その記録—

(日本のマスコミは全く報道せず)

タイ国は2011年9月～11月に、100年に1度と言われる大洪水が発生しました。政府は国を挙げてEMを活用し、洪水に伴う様々な衛生問題を解決しました。

日本企業の大半の工場も、タイ国の仏教協会のトップもEMを活用しました！





大型EMタンク

市民へのEMの総配布量は1,500,000L

陸軍、環境省、社会開発省がまとめ、解決策にEMを使用

この非常事態に軍部を総動員し、国策としてEMを活用しました

しかし



日本の工場も浸水

様々な廃棄物がごちゃ混ぜ

異臭発生

生ごみ

油

水に浸りすぎて水虫発生!

大洪水で、北海道の面積を上回る地域が浸水しました

タイの首都圏では、海拔が0mに近いため、例え、その地域で雨が降らなくても、上流に降った雨が浸水し、町中が川になりました

	  <p>ほとんどEMが使われ始めたよ!</p> <p>プロジェクトスタート</p>	
<p>バンコク郊外の水没地域の状況</p>	<p>インラック首相がEMダンゴ投入</p>	<p>各地でのEMの配布の状況</p>
	 <p>EM団子の作り方も書いてあります</p>	 <p>EMの活用方法の説明が沢山</p>
<p>各地のEM活動の状況</p>	<p>陸軍EM使用法のマニュアル</p>	<p>環境省EM使用法のマニュアル</p>
		
<p>配布用のEM活性液の瓶詰め作業と運搬</p>	<p>市民へのEMの提供</p>	<p>陸軍の市民への協力活動</p>

海外で一番初めにEMが伝わり、実践していたタイ国の実情



タイ国へのEMの導入はもともと国王陛下が提唱する「足るを知る経済」のなかで、陸軍が1966年からEMを活用した環境保全型農業を推進し、学校教育プログラムでも実施していました。本格的な普及は1989年にコンケン大学で行われたEMの国際会議後で、当初は農業と環境分野の活用から始まりましたが、エイズの発症予防や消化系の疾患に顕著な効果があることが明らかになるにつれ、民間の病気の予防や治療法としても活用されるようになりました。その効果に驚いた厚生省の関係者は医療関係者からなるEMの活用検討会や研究会を自主的に発足させ、比嘉博士の訪タイに合わせEMの安全性や効果のメカニズムについて意見を交換し、様々な実証を行い、その結果、「EMは臨界点に達すると必ず効果が出る」「大腸菌や有害微生物の活動を抑制し、塩素消毒や高熱殺菌と同等以上の効果がある」「副作用はまったくない」「二次汚染は全くなく、EM活用を続けると院内感染はもとより衛生問題も同時に解決する」等々の結果が明らかとなり、病院関係者がEMを積極的に使うようになり、国もそのことを容認していました。農業・医療分野で大活躍でした。世界でのEMの生産量ベスト5は、タイ・中国・インドネシア・日本・パキスタンの順でタイがトップです。

11月4日、タイ国立工科大学の卒業式に招待され、名誉博士(持続可能エネルギーと環境)の学位を授与されました。これまで複数の国から数例の名誉博士や名誉教授の栄を受けていますが、特にタイはアジア・太平洋地域のEM普及の中心となっており、多数の国家プロジェクトにEMを活用して、EM立国を着々と進めていますので、今回の栄誉は特に感慨深いものがあります。(比嘉博士)